

本條秀太郎 「端唄〜江戸を聞く〜面影」



本條秀太郎が定期的に催している「端唄〜江戸を聞く〜」の第37回目が、2月5日、東京・紀尾井小ホールにて開かれた。「面影」と題して、今回は新たな試みがなされている。

第一部は、いつものように季節に合わせた端唄の数々が披露される。新春ということで「春」にちなんだものの、「春風にそよそよと」「梅は咲いたか」「花は上野」などなどである。そして、これもいつものように、喋りはなしで一気に聞かせた。

そして、第二部。今回は明治以来の流行歌の数々が歌い、奏でられる。

「宮さん宮さん」「推量節」「籠の鳥」「宵待草」「ゴンドラの唄」「蘇州夜曲」「ラバウル小唄」などだ。

それらの間に本條の洒落な解説が挟まり、観客は唄と時代、歌詞や作者についてを知ることになる。「推量節」がどういうわけかオペラ「蝶々夫人」で使われていたり、「東雲節」は娼妓のストライキを歌ったものであったり、「かごの鳥」という端唄と「籠の鳥」とを比較したり、なかなかのためになるステージであった。

なお、アンコールもまた古い流行歌で「麦と兵隊」が歌われた。